

福井県総合グリーンセンター(1/2)

広い芝生のグリーンパークや木々の緑豊かな都市公園！ 林業に関する試験研究機関

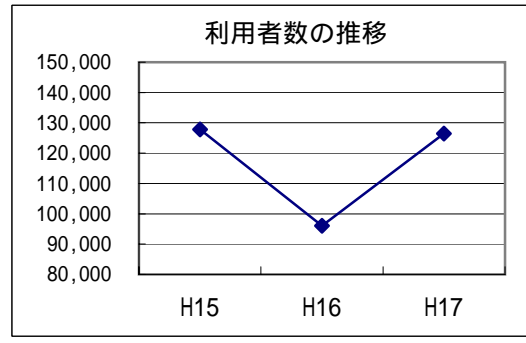
所在地	坂井市丸岡町楽間15		
設置年月日	昭和55年4月1日		
施設の種類	林業試験場および緑化植物園・公園	施設管理主体	県
設置の目的	県民がみどり豊かな自然環境の中で、みどりを愛し、みどりを生活の中に取り込んでいくために必要な知識や技術の普及と啓発活動を行い、もって県土緑化の推進に役立つことを目的としています。		
概要 (構造、面積、主な機能)	林業試験部では、森林の育成、林業に関する特産物の開発、木材の開発等の研究を行っており、また、園内には都市緑化植物園(熱帯展示温室、みどりの相談所、季節の草花の展示温室等)とグリーンパーク(展示室や展望台があるウッドリムフクイ、北前船の展示やカラクリ時計があるウッドハウス九頭竜、大きな芝生広場や水上ステージのふれあい広場、ミニボート池、子供用遊具等)があり、園内には約1,150種で約75,000本の展示木が植えられています。		
職員数	職員23人 非常勤嘱託8人 アルバイト4人 計35人		

利用状況等

	H15	H16	H17
利用者数(人)	127,872	96,093	126,453

利用者負担(利用料金)等

	入園料	無料
九頭竜和室	1日	3,100円
試験機器	機器の種類により設定	



利用状況の推移

来園者の多くは屋外の公園の利用が目的であり、年間来園者数はその年の天候に大きく左右される傾向にあります。
平成16年度は、春や秋の幼稚園や小学校の遠足シーズンの天候が不順であり、特に台風が福井県に3回接近したことや、ウッドリムの展示室が改修(6か月間)により利用できなかったことから、前年度に比べ25%減少しました。
平成17年度は、ウッドリムフクイの展示室をリニューアルしたことや、学校の遠足シーズンが天候に恵まれたことから増加しました。

平成17年度の特徴について

事業実績	緑の相談業務	相談件数	単位:件		
			15年度	16年度	17年度
			1,035	1,248	1,220
緑の教室	開催回数および参加者数	単位:人			
		15年度	16年度	17年度	
		15回	16回	14回	
			599	614	536
イベント	・「グリーンフェア2005」を10月に開催(来園者 約19,000人)				
試験研究部門	<ul style="list-style-type: none"> ・タケ根系の侵入拡大防止資材の実証試験 ・森林施業によるカシノナガキクイムシ飛来密度コントロールの実証試験 ・ハタケシメジ露地栽培法の開発 ・ウスヒラタケ優良品種「ふくひら2号」の機能性成分調査(平成15年2月品種登録済) ・県産スギ材の建築部材としてのめり込み強度試験 ・県産スギ構造用高温乾燥材の特性解明 ・松くい虫防除適期の特定(成虫の発生推移調査から羽化脱出時期を予察) ・産学官の連携を強化し、企業や大学および県内3試験研究機関と県産スギ高温乾燥技術、木製ガードレール強度試験、キノコや木質バイオマス利用の共同研究を実施 				

観光との連携

- ・各種ガイドブックに情報を提供
- ・園内に県内の観光ポスターを展示し、来館者へ情報を提供

研究の状況 「施設のHPを参照」



ハタケシメジの育成



木材強度試験



カシノナガキクイムシの飛来密度試験

総合グリーンセンター(2/2)

行政コスト計算書(平成17年度) (単位 千円)

	総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	240,985	55.6%
	退職給与引当金繰入	7,170	1.7%
	計	233,815	52.7%
物にかかるコスト	物件費	135,591	31.3%
	維持補修費	10,462	2.4%
	減価償却費	53,843	12.4%
	計	199,896	46.1%
その他	公債費(利子)	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	計	0	0.0%
合計	433,711	100.0%	60.2%

バランスシート(平成18年3月31日現在) (単位 千円)

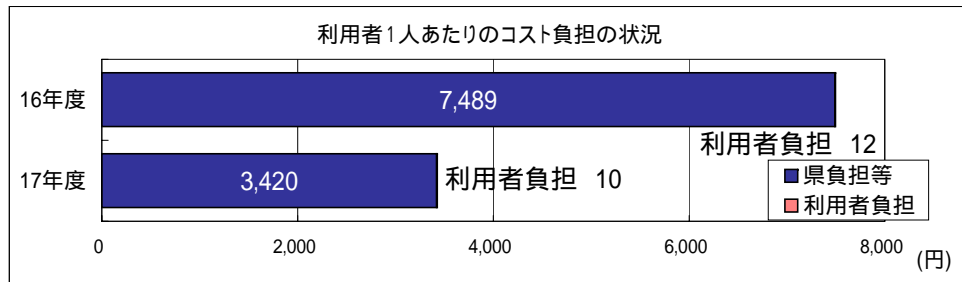
借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	1,447,648	96%	固定負債	181,470	96%
投資等	0		流動負債	0	
流動資産	0		正味資産	1,266,178	96%
計	1,447,648	96%	計	1,447,648	96%

(単位 千円)

収入				前年比
利用料等収入	1,213	0.3%	105.3%	
その他収入	3,517	0.8%	96.0%	
一般財源	428,981	98.9%	59.9%	

(前年比)

利用料等収入計	1,213,000 円	105.3%
利用者1人あたり平均利用料	10 円	83.3%
利用者1人あたりコスト	3,430 円	45.7%



バランスシート、行政コスト計算書の特徴
<ul style="list-style-type: none"> ・試験研究部門の経費が算入されているため、1人あたりのコストは高くなっています。 ・入園料が設定されていないことから、施設利用料等の割合は少なくなっています。 ・平成17年度は、コスト全体が前年比約60%に減少し、施設利用者数は増加したことから、利用者1人あたりのコストは前年比大きく減少しています。

施設の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木や花を展示する「都市緑化植物園」と木造施設や遊具等が利用できる「グリーンパーク」の二つの大きなゾーンから構成されており、県民の「憩いの場」として利用されています。 ・施設内に林業に関する試験と研究する機関が設置され、森林の造成管理、病害虫の研究、特用林産物・キノコの開発、県産材の新たな需要開発や木質バイオマス等に関する研究を行っています。 ・面積21.5haのなかに、谷・川・池の造成や樹木植栽、タマネギ型の熱帯展示温室、ヨーロッパの古城を思わせる「ウッドリームフクイ」、木造建築の「九頭竜」、盆栽展示施設、木製遊具などが設置されており、周囲の住宅環境や田園風景にマッチした総合的な「木と花と緑」に関する拠点施設となっています。また、森林浴を楽しみながらの散歩やジョギングを楽しむ人々に親しまれている施設でもあります。 ・「ウッドリームフクイ」の展示施設を改修し、来園者に森林や木材のよさを、より良く知ってもらうため、パネルや展示物から緑あふれる野外へと案内するサービスを行っています。
平成17年度の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「グリーンフェア2005」を10月に開催し、造形作家の専門家を招いて、小枝や木の葉を使ったアートクラフト体験会の実施や木片を使った遊び、きのこ料理の試食など、森の恵みを活用した体験活動を実施し、非常に好評でした。 ・来園者は、年間126,000人余りで、団体が321団体、25,500人余りであり、県外からも50団体、約5,000人が来園するなど、本県の重要な観光資源の一つとなっています。 ・緑の相談業務では、近くの公的機関へ草花栽培の実技指導を行うなど、センターの外での相談・指導も実施しました。また、緑の教室では花や庭木づくりに関する教室だけでなく、大学医学部講師による癒し系講座「植物と健康の関わり」や、専門家を招いての「園芸セラピー入門」などを実施しました。 ・小学校の団体を対象とした緑の相談員による「都市緑化植物園」の案内や、グリーンインストラクターによる樹名クイズを実施するなど、来園者へのサービス向上に努めています。 ・林業試験研究について、県産材活用の研究など本県森林・林業の活性化に向けて研究しています。(詳細は前述の「事業実績」のとおり)
今後の事業方針・取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・県民サービス第一主義を念頭において、県民に開かれた施設として適切に管理し、サービスの向上に一層努めます。 ・来訪者の大部分が幼稚園や小中学生の遠足や親子づれであることから、園内全体の安全管理を徹底し、遊び池や噴水遊具等危険箇所の常時点検を行います。また、多種大量の樹木(1,150種、75,000本)の管理を重要課題と位置づけ、今までに培われた技術を駆使し、管理します。 ・県民に何度でも来園してもらえるよう、緑の相談員やグリーンインストラクターによる来園者への案内の増加など、ソフト面の充実を図ります。 ・緑の相談員が近くの公的機関等に出張指導するなどして、地域の人々に愛され、親しまれる施設づくりを目指します。 ・林業試験・研究について、研究と普及の一体化による迅速な試験研究成果の技術移転およびPRを図ります。また、産学官の連携した共同研究をさらに進めます。